

ていばーく展示場紹介①

新常設展示場オープン！

3月9日に新装オープンとなった新コーナーのご紹介をさせていただきます。

「前島密コーナー」では、郵便事業の創始者である前島密の生涯と陸・海運の振興・鉄道計画・新聞育成などの日本の近代化に貢献した功績を「前島密一代記」（梶鮎太画）42点と「前島密業績絵画」（守屋多々志画）15点で紹介しています。郵便決議簿・大久保利通の書状・西南戦争時の電報・まいにちひらがなしんぶんなど貴重関連資料も展示しています。（展示品は資料保存のため変更します。）

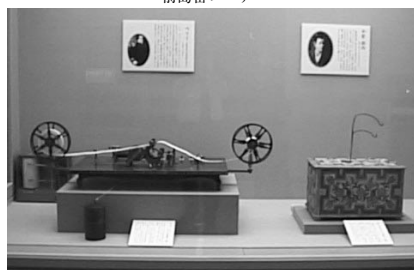
「重要文化財コーナー」では、ペリー提督が幕府に献上した「エンボッシング・モールス電信機」、伝平賀源内作「エレキテル」の展示をしています。6月15日からは新たに電信創業時使用の「ブレゲ指字電信機」が仲間入りし合計3点となります。（6月15日～23日に実物展示、それ以外はレプリカ展示となります。）

「ポストコーナー」では、明治5年からの「掛箱の変遷」や明治34年試行時からの「赤いポストの変遷」を紹介しています。中でも赤色ポストの原型である丸形庇（ひさし）付ポスト（明治45年）、航空郵便試行時に使用されたスカイブルーの専用ポスト（昭和4年）、代用ポスト（昭和12年）など実物のポストを展示しています。

「切手検索コーナー」では、ハノーバーで使用した切手検索のパソコン2台を設置し、自由に検索できます。



前島密コーナー



重要文化財コーナー

学芸員雑記帳

「逋信の意味」

逋信総合博物館の“逋信”という言葉の意味についてよく聞かれます。その逋信とは、明治時代に日本で作られた合成語です。明治18年内閣制度が発足すると、「逋信省」が新設されました。農商務省から駅逋局と管船局を移管し、廃止された工部省から電信局、燈台局を引継ぎひとつの省としました。これにより、逋信省は通信・交通運輸を総括する中央省庁となりました。逋信の名称は、駅逋局の「逋」と電信局の「信」を合わせて新しく作られた言葉です。後に工部局長となった志田林三郎は、明治16年「駅逋電信局合併の利益並びに駅逋院新組織」という建議書を提出しています。ちなみに「逋」は“かわるがわる伝え送る”ことを示し、やがて宿場そのものの意味にも用いられました。「信」は“たより”の意味があり、そこから逋信の語が生まれ、電信の語も電気逋信の略語です。（井上恵子）